

第3回 箕面市交通ネットワーク活性化検討協議会における意見、対応方針について

項目	意見	対応方針	備考
1. 第2回協議会における意見、対応方針について	<ul style="list-style-type: none"> • (特になし) 		—
2. 本協議会における議題の枠組について	<ul style="list-style-type: none"> • (特になし) 		—
3. 公共交通のあり方の検討について	<ul style="list-style-type: none"> • 役割分担に関する考え方の中で、新箕面の位置づけは千里中央からかやの中央に鉄道が延伸されることによって、大阪圏における都市拠点の形成促進に寄与するものと考えられるので、交通広場の有無も含めて広域交通の拠点として強化が必要であるということを知りやすく記述する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • (第3回協議会 資料 3) 23 頁において検討した内容を行っているので、こうした内容(都市拠点の形成促進、北部大阪地域の交通拠点としての機能強化)のキーワードを、報告書(案)の 4.3「公共交通のあり方(まとめ)」の図(77 頁)でよりわかりやすく表現した。 	→資料 2 10 頁 (4.3 77 頁)
	<ul style="list-style-type: none"> • この協議会の中で「バス路線網再編の方針」と断定的になってしまうと、この形でいくという可能性もあるので、今後も検討する余地があるという形にするために、「再編の方針の検討」といった表現にしてもらったほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「再編の方針」の表現については、誤解を生じることのないように「バス路線網再編の方針(案)」とし、今後具体的な検討を行うときの検討材料とすることを明記する。 	→資料 2 4 頁～ (4.1.4 54 頁～)
	<ul style="list-style-type: none"> • バス路線再編の「検討の視点」から「再編の方針」へのつながりが不明瞭である。視点の中で何を重視した結果、「再編の方針」が出て来たのかが唐突なイメージであるので、プロセスがわかるように整理したほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「かやの中央と千里中央との連携・役割の考え方」を示すとともに、「重視した視点」を明記して再編方針(案)を導くプロセスを明確にする。 	→資料 2 7 頁 8 頁 10 頁 (4.1.4 58 頁 59 頁 4.3 77 頁)

項目	意見	対応方針	備考
3. 公共交通のあり方の検討について	<ul style="list-style-type: none"> 広域型の機能は千里中央に残しておいて、ローカルの機能を中心に新箕面にシフトしていくのが本来の機能分担だと思うが、役割分担に関する考え方のところは、広域型、フィーダー型、ローカル型、観光型、その他と全てがエリア毎に別かれていて、機能分担というよりも同じ機能をお互いに持ってしまう。現段階では新箕面駅と千里中央駅の機能分担がはっきりと明文化するほど整理できていないので、バス路線も抽象的に書く方がよい。また、新箕面駅と千里中央駅の機能分担の関係がわかりづらいので、書き方を再検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「かやの中央と千里中央との連携・役割の考え方」を示すとともに、「重視した視点」を明記して再編方針（案）を導くプロセスを明確にする。 	→資料2 7頁 8頁 10頁 (4.1.4) 58頁 59頁 4.3 (77頁)
	<ul style="list-style-type: none"> バス路線再編検討の視点はほとんどが箕面ローカルの公共交通のことを述べているので、路線の機能分類の順番をフィーダー型、ローカル型、観光型の順として、広域型というのはその下に来るようにするとよい。検討の視点と統合的なバス路線の再編の課題と言えば、フィーダー型とローカル型が圧倒的に高い優先順位を持つであろうから、列挙する順番等を工夫するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 列挙する順番を、フィーダー型、ローカル型、その他（観光型・広域型等）とした。 	→資料2 5頁～ (4.1.4) (56頁～)
	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な交通体系の視点はネットワークのシステム構成がメインとなるが、その時の留意点がまちづくりの視点、環境負荷軽減の視点、利用者の視点であり、それを踏まえてネットワークの再編の話につながるように思う。事業者、行政、市民それぞれの関係者による協働の視点を入れて、ネットワーク再編、新たなシステム構築は、みんなで一緒に協力しながらやるという方向でバス路線再編の方針につなげたらよい。 事業者だけに委ねるのではなく、公的機関である自治体も公共交通サービスの向上のために関与して、よい公共交通システムをつくっていくという視点が必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「公」と「民」のパートナーシップの視点を取り入れた。 	→資料2 3頁 10頁 (4.1.3) 53頁 4.3 (77頁)

項目	意見	対応方針	備考
4. モビリティ・マネジメント（MM）の取り組み方策、バス利用促進方策、自転車と公共交通の連携方策について	〔モビリティ・マネジメント（MM）の取り組み方策〕 <ul style="list-style-type: none"> MM を分析する視点では、事前と事後を基準化して影響を纯粹も抽出することが望ましいので、こうした課題についてもコメントを少し加えたほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の調査を踏まえ、MM の分析における課題を記述した。 	→資料 2 11 頁 (5.1.6) 117 頁
	<ul style="list-style-type: none"> 今後各地区で MM を展開する場合、MM に対して積極的に参加する意思を示した自治会等には、一定の支援をした方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 居住者MMの今後の展開の中で、こうした考え方を記述した。 	→資料 2 12 頁 (5.1.6) 123 頁
	<ul style="list-style-type: none"> バス利用促進方策の中でも、具体的な MM 施策を相互に実施することが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域公共交通連携総合計画」の中でも、何らかの形で検討していく。 	—
	〔バス利用促進方策〕 <ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通総合連携計画におけるバスサービスの検討に際して、一番のベースは市民のニーズに対応した形で、現状のバスサービス供給がうまく出来ているかを把握することで、事業採算性はその次に検討するのがよい。（意見） 	—	—
	<ul style="list-style-type: none"> バスサービスの改善で示されている内容について、相対的な比較が可能なようにデータを提示してもらいたい。また、事業者の実情に関する情報を関係者で共有してもらいたい必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では、詳細に整理して資料として表現するには情報が不足しているので、今後もニーズ把握のための調査も含めて分析する必要がある。そこで、今回は検討する方向性を整理したまでに留めた。 	—
5. とりまとめ（案）について	〔自転車と公共交通との連携方策〕 <ul style="list-style-type: none"> （特になし） 	—	—
	<ul style="list-style-type: none"> 箕面市に限らず、公共交通の利用促進というのは大きな課題であるので、公共交通の利用促進はこのエリアに限定せずに様々な方法で模索しながら取り組んでほしい。公共交通を出来るだけ盛り立て、公共交通の利用が多くなってくれば、次の展開として鉄道の延伸というような話も機運として盛り上がる。（意見） 	—	—

項目	意見	対応方針	備考
	<ul style="list-style-type: none"> 調査のとりまとめにあたっては、取り組み方針の整理だけでなく、公共交通の利用促進の取り組みを継続する視点で、次に繋がるような姿勢を打ち出してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「今後の取り組みに向けて」を追加した。 	→資料 2 13 頁 (6) 204 頁〜
	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の視点では、4つの項目を挙げてバスサービスの改善によって、利用者がバスに乗ってもらえるということを書かれているが、今回の MM の調査によって公共交通へ転換する意思をお持ちの方が多数おられることが明らかになったので、バスサービスの改善を契機に公共交通への転換の努力もお願いしたい。(意見) 	—	—
	<ul style="list-style-type: none"> 事業者の視点では、サービスの維持や提供には多額の費用が必要なので、国の制度や行政からの助成等が必要であるといったことも明記してほしい。 バス路線網の再編検討の視点において、事業者の視点や利用者の視点はあがるが、行政と事業者、すなわち「公」と「民」のパートナーシップの視点が欠落している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「公」と「民」のパートナーシップの視点を取り入れた。 	→資料 2 3 頁 10 頁 (4.1.3) 53 頁 4.3 77 頁